



カリフォルニアの風

サンフランシスコ日本語補習校 令和3年5月号

季節の移ろいを感じて

公園や近郊の樹木が、みずみずしい緑をたたえ目を楽しませてくれています。一方、緑だった丘陵が薄茶色に変わってきたことで、カリフォルニアの夏が間近に来ていることを感じています。

お陰をもちまして私たちの授業は、計画通りに順調に進んでいます。昨年度のオンラインによる授業づくりの経験を活かし、ITを活用した「より分かりやすい授業」や「新しい発見や自分の考えをもつ」ことに焦点を当てた授業に取り組んでいます。先生からの一方向からの情報発信だけではなく、子どもからの考えを引き出したり、子ども同士の考えを突き合せたりすることで、深い学びをつくることを目指しています。

「ちょっと考えてみてください。」

現在、AI（人工知能）の発達には、目ざましいものがあります。そんな中で、「ロボットは東大に入れるか」というプロジェクトに取り組んでいた新井紀子さんの本で、AIは「言葉の意味を理解して問題を解いているのではない」と言うところがありました。そして、今、教科書が読めない子どもたちを、何とかしてやらなくてはと訴えています。この新井さんの本の中に出てくる問題を出してみます。

- ・幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、大名には沿岸の警備を命じた。
 - ・1639年、ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた。
- 以上の2文は同じ意味でしょうか。

もちろん、答えは「異なる」です。けれども、日本国内の中学生の正答率は57%にとどまりました。

この問題は、読解力を試す問題です。私たちはAIに仕事をとられる前に、読解力をつけて問題を解決する力をつけていかなければなりません。この読解する能力は、小学校・中学校の間は平均的に向上するそうですが、高校ではあまり向上しないというデータが出ているようです。ですから、補習校の皆さんは日本語でも英語でも、より多く活字に触れて、読み取る力を着けて欲しいと思います。確かな読解力をもつことは生涯に渡って、考える力、学習していく力を支えてくれます。そして、豊かに生きていくための大きな要素として、新しいものを生み出すクリエイティブな発想も大切だと考えます。

2018年にノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑先生の言葉に、「世の中の事は、うそが多い。教科書がすべて正しかったら、科学の進歩はない。基本は人が言っている事や教科書に書いてある事を、全て信じないで、『なぜかな』と、『不思議だな』と思う心を大切にすることです。」と語っています。

一見いつもと同じ生活の風景の中にも、少し異なった事象を見つけることができるものです。パッと目でとらえたり、じっくり見つめたりすることで、新しい発見を生み出すことができるかもしれません。季節の移ろいを感じたり、じっくり本と向かいあったりして、充実した時を過ごせたらいいなと思います。

○本年度の集中学習は、6月14日（月）～6月30日（水）までの3週間中の10日間です。

保護者の皆様へ

現地校では対面授業が徐々に再開されてきていますが、補習校においては校舎を借りる立場ですので、残念ながら現時点ではどの校舎借用校においても、再開時期を具体的に話す段階に無い状況です。しかし、状況は刻一刻と変化していますので、借用校とのコミュニケーションは引き続き行い対面授業開始を模索して参ります。

コロナ感染症についての規制は大きく緩和されてきていますが、うがいや手洗いについての規制解除はありません。子どもたちが自ら「自分の健康・命を守る」という気持ちで生活していく心を育てていきたいと思っています。